

高温に伴う農作物管理対策について

気象災害対策H27-2
平成27年4月28日
農林総合研究センター

I 気象概況

新潟地方気象台から「高温に関する異常天候早期警戒情報」が発表されています。気象情報では、5月2日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれます。

今後の気象情報に注意し、農作物の適切な管理に努めてください。

II 農作物の管理対策

1 水稲

(1) 育苗時の温度管理

気温が高く経過しているため、一部のハウスでは徒長苗が発生している。このため、ハウス内の温度管理には十分注意し、温度が過剰に上昇しないよう留意する。

硬化期は日中のハウス内温度を15～20℃に保つよう換気を行う。田植え時期が近づいたら夜間も開放して外気に慣らし、健苗づくりに努める。

(2) 病害などの発生防止

ムレ苗や細菌病の発生が懸念されるので、温度管理の徹底および水管理に注意するとともに、苗の見回りを徹底する。

(3) V溝直播

種種後に晴天が続き、圃場が乾きすぎている場合は、走り水を実施し、出芽・苗立を促す。（圃場に水が行き渡ったら直ちに排水する）

2 野菜・花き

(1) トンネル栽培の温度管理

高温による萎れや葉焼けとなりやすいため、すそ換気や穴開け換気によってトンネル内の温度調整を行なう。密閉状態から初めて換気を開始する時期は急激な湿度低下による萎れとなりやすいため、事前にかん水を行なっておく。

穴開け換気の場合は最低気温の上昇にあわせて換気穴を増やすが、霜注意報など気象情報に留意して換気量を増やす。

(2) 施設栽培

急激な高温で乾燥する場合は根の水分吸収が追いつかず、水分不足による萎れやカルシウム欠乏等の要素欠乏症の発生が懸念される。

通路散水による空中湿度の確保やカルシウム入りの葉面散布を行なう。

(3) 病虫害の発生

害虫の発生が早まる可能性があるため、病虫害発生予察情報に留意し適切な防除管理を行う。

3 果樹

(1) ハウス内の温度管理

ぶどう、いちじく等のハウス栽培では、ハウス内の高温による生育障害を招きやすいので、換気による適切な温度管理に努める。

(2) かん水管理

① 高温時には、樹体からの水分蒸散が激しくなるので、高温状態が長期間続く場合はかん水を行う。かん水量の目安は、5～7日間隔で1回20mm程度とする。

② かん水施設がない園では、少量の用水で効果が期待できる簡易な点滴かん水を行う。

(3) 計画的な管理作業の実施

① 開花期が終了したもも、日本なし、りんご等では、幼果の発育期に高温、乾燥が続くと果実肥大が不良となる。かん水のほか、摘果で結果量を早めに調節し、果実の初期肥大を確保する。

② 高温により生育が進み、これから開花期を迎えるぶどう、かき等では、生育の前進化が予想されるので、花穂の整形（ぶどう）、摘らい（かき）等の作業が適期になされるよう、準備を計画的に進める。

(4) 病虫害防除

① 高温により、ケムシ類やハダニ類等の発生が早まると予想されるので、園内の害虫発生状況をよく観察し、初期防除に努める。

② 高温・乾燥状態が長いと樹体の衰弱から葉害が発生しやすくなるため、防除の際は散布濃度に注意し、朝又は夕方の涼しい時間帯に行う。

(5) ぶどう「デラウェア」のジベレリン処理

乾燥状態での第1回目ジベレリン処理や処理後の夜間の高温による種子混入や花振るいが起きやすいので、温度管理に注意する。

また、生育の揃いも悪く、着果確保に不安がある場合は、ジベレリン処理液にホルクロルフエニユロン液剤1～3ppmを混用する。

気象情報

高温に関する異常天候早期警戒情報（北陸地方）

平成27年4月27日14時30分 新潟地方気象台 発表

要早期警戒（気温）

警戒期間 5月2日頃からの約1週間

対象地域 北陸地方

警戒事項 **かなりの高温（7日平均地域平年差+2.2℃以上）**

確率 **30%以上**

今回の検討対象期間（5月2日から5月11日まで）において、北陸地方では、5月2日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれます。

農作物の管理や積雪の多い所ではなだれや融雪に注意してください。また、今後の気象情報に注意してください。

なお、北陸地方では、1週目から2週目にかけて気温の高い状態が続く見込みです。